加害者にも被害者にもしない **誰が教えるの？** で終わらせない

# 福祉現場でも考える 子どもの性教育



**7月1日**

開催日時　令和8年~~6月3日~~ 水
10:00～12:00（2時間）

会場　川口市立青木会館 会議室A
住所：川口市青木3－3－1

# 本日の流れ

1. 開催のあいさつ
2. なぜ今、福祉現場で性教育なのか
3. ネットリテラシーと性教育はセット
4. 「性教育」はいつから？
5. グループワーク・事例検討
6. 最後に

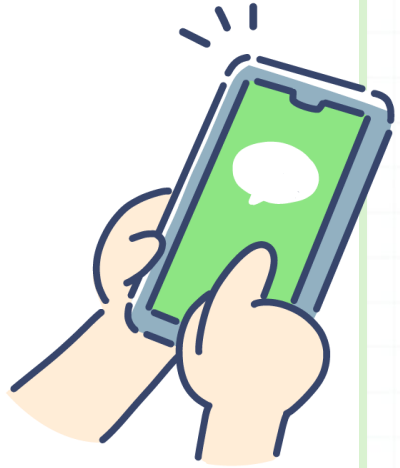
# 01 開催のあいさつ

# 02 なぜ今、福祉現場で性教育なのか

# 03 ネットリテラシーと性教育はセット

# ネットリテラシーと性教育はセット

**「デジタルとかITは苦手で…」**
**そうやって、後回しにしていませんか？**



・スマホのことは、正直よく分からない
・SNSやゲームの話になるとついていけない
・でも子どもたちは、毎日そこにいる

私たちが知らない場所で、困りごとや危険は起きているかもしれない
“**分からないから触れない**”で、本当に大丈夫でしょうか？

# SNSに起因する子どもの性被害の現状



まず押さえたい全体像

## 被害は減っていない。増えている。

令和7年は、SNSをきっかけとした被害児童数が増加しました。
「昔より安全になった」とは言えず、今も継続して起きている問題として捉える必要があります。

## 被害の中心はスマートフォン

被害児童1,566人のうち、スマートフォン経由は1,529人でした。
つまり、被害の入口はほぼスマホです。対策も「スマホを持たせるかどうか」ではなく、
持っている前提でどう守るかが重要です。

## 中学生が最多。だが小学生も増えている

中学生758人（48.4%）が最多でした。次いで高校生579人（37.0%）、小学生167人（10.7%）です。特に小学生は前年より31人増、+22.8%で、低年齢層への広がりも見逃せません。

警察庁生活安全局人身安全・少年課の「令和7年における少年非行及び子供の性被害の状況」

# どんなことが起きている？

## 被害は「児童ポルノ」や「買春」だけではない

令和7年の内訳では、
児童ポルノ426人、児童買春128人だけでなく、
不同意性交等329人、不同意わいせつ185人、略取誘拐79人も確認されています。
つまり、SNS上のやり取りは、画像送信や性的会話にとどまらず、
**実際の接触や重大な性被害につながっている**ということです。

## 特に「不同意わいせつ」の増加が大きい

不同意わいせつは185人で、前年より83人増（+81.4%）でした。
法改正の影響で過年度との単純比較には注意が必要ですが、少なくとも近年、深刻な接触型被害が増えていることは強く意識すべきです。

警察庁生活安全局人身安全・少年課の「令和7年における少年非行及び子供の性被害の状況」

# 犯罪に巻き込まれるきっかけは？

## 子ども自身の投稿がきっかけになることが多い

「最初に投稿した者」の内訳では、被害児童自身が最初に投稿したケースが1,162人（74.2%）でした。
これは、知らない大人から突然狙われるだけではなく、子ども自身の投稿が入口になるケースが多いことを示しています。

## 危険なのは露骨な性的投稿だけではない

被害児童の投稿内容では、

- **プロフィールのみ 210人（18.1%）**
- **日常生活 173人（14.9%）**
- 援助交際募集 150人（12.9%）
- **趣味・嗜好 131人（11.3%）**
- 友達募集 129人（11.1%）

となっています。
つまり、危険なのは「明らかに危ない投稿」だけではなく、
普段の何気ない発信や自己紹介的な投稿も接点になるということです。



警察庁生活安全局人身安全・少年課の「令和7年における少年非行及び子供の性被害の状況」

# 教えなければならないこと

## 低学年〜小学生向け

・知らない人とは、ネットでも友だちにならない
・名前や学校が分かることは書かない
・写真は一回送ると、止められないことがある
・イヤなこと、へんなことを言われたら、大人に見せていい
・秘密にしてと言われたら、すぐ相談でOK

## 小学校高学年〜中学生向け

・“普通の投稿”でも相手には手がかりになる
・アイコン、プロフィール、部活、制服、駅、風景でも特定されることがある
・会おう、写真送って、2人だけの秘密は危険信号
・ブロックして終わりでなく、スクショして相談
・怒られないから、早めに話していい

## 高校生向け

・自己責任で片づけない
・“自分は大丈夫”と思う時ほど危ない
・恋愛っぽく始まっても、支配や脅しに変わることがある
・画像・動画は同意なく保存、拡散されることがある
・困ったら証拠を消す前に相談する

# 言うだけでは、子どもは動かない

**声掛けや啓発だけなら、どの学校でも実際に行っています。**
しかし、それだけで十分に理解できるとは限りません。
なぜなら、実際の危険はもっと曖昧で、もっと身近だからです。

- みんなやっているから
- 相手は最初から怖く見えない
- 普通のやりとりの延長に見える
- 断りにくい
- 怒られると思って相談できない



だからこそ、一般論ではなく、
**具体的な事例を通して一緒に考え、**
**我が事として理解することが大切です。**

# 子どもと確認したい事例

## 汎用的なワーク事例

「写真を送ってと言われた」

小学5年生のBさんは、SNSで同じ趣味の話をしていた人とやりとりをしていました。相手は最初、とても感じのよい人でした。

「話してて楽しい」「Bちゃんだけはちゃんとわかってくれる」「もっと仲良くなりたい」

しばらくすると、相手はこう言いました。

「顔写真送って」「1回だけなら大丈夫だよ」
「誰にも見せないから」「送ってくれたら、こっちも送るよ」「信じてるよ」

Bさんは迷っています。
イヤな気持ちもあるけれど、断ったら相手が怒るかもしれないし、嫌われるかもしれないと思っています。

考えてみよう

1.Bさんは、どんな気持ちで迷っていると思いますか？

2.「送らないほうがいい」と思う理由は何ですか？

3.相手の言葉のどこに、気をつけたほうがよいポイントがありますか？

4.Bさんが断りやすくなる言い方を一緒に考えてみましょう

5.もしBさんがすでに送ってしまっていたら、次にどうするのがよいと思いますか？

# 子どもと確認したい事例

## 現代的な事例：何気ない投稿が、AI加工を使った脅しにつながったら？

「普通の写真を出しただけだったのに…」

中学2年生のAさんは、SNSに日常の写真をよく投稿しています。顔がはっきり写っている写真もありますが、Aさんにとってはいつもの投稿です。

たとえば、友達と遊びに行った日の写真、部活帰りの自撮り、鏡の前で撮ったコーデ写真、顔が分かるプロフィール画像など。

ある日、Aさんの投稿に見慣れないアカウントから反応がありました。「かわいいね」「雰囲気好き」「いつも投稿見てるよ」

最初は少し気になるくらいで、Aさんは特に気にしていませんでした。しばらくすると、その相手からDMが来ました。

「もっと話してみたい」「仲良くしたい」「写真の感じ、すごく好き」 Aさんは少し不安だったので、返事はあまりしませんでした。

すると数日後、その相手から急に画像が送られてきました。そこには、Aさんの顔写真が別の体に合成されたような画像がありました。服を着ていないように見える加工がされていて、本物の写真のようにも見えます。

相手はこう言いました。「これ、もう作れちゃったよ」「本物じゃないって言っても、見た人には分からないよね」「言うこと聞かなかったら広める」「もっと写真送って」「親や先生に言ったら先にばらまくから」

Aさんは頭が真っ白になりました。「こんな写真、撮っていないのに」「でも、顔は自分だし、本物みたいに見える」「相談したら怒られるかも」「自分が顔写真を出していたのが悪かったのかな」と考えてしまい、誰にも言えずにいます。

# 子どもと確認したい事例

## 現代的な事例：配信・ライブ機能からの接触

「見てくれる人がいるのが、うれしかった」

　中学1年生のBさんは、好きなゲームの話や雑談を、SNSのライブ機能で時々配信しています。本格的な配信者ではなく、家で少し話したり、ゲームをしながら配信したりするくらいです。

　ある日、いつもコメントをくれる人がいました。「今日も見にきたよ」「話し方かわいいね」「そのゲーム上手だね」「また配信してほしい」

　Bさんは、見てくれる人がいるのがうれしくて、その人のコメントを少し楽しみにするようになりました。何回か配信を見にきたあと、その人はコメントでこう言いました。

　「ここだとあまり話せないから、DMしない？「もっとゆっくり話したい」「他の人には見られたくないし」「配信、いつも見てるからもう仲いいでしょ？」

　Bさんは少し迷いましたが、何度も来てくれている人だし、悪い人には見えなかったので、DMで返事をしました。

　最初は普通の会話でした。でもだんだん、相手はこんなことを言うようになりました。

　「部屋ってどんな感じ？」「今ひとり？」「配信してないときの写真も見たいな」「通話しない？」「親には言わなくていいよ。心配しすぎるから」

　Bさんは少しこわくなりました。でも、自分で返事をしてしまったし、急にやめたら悪い気もしています。

# 子どもと確認したい事例

## 現代的な事例：フォロワー数で脅してくるパターン

「この人、フォロワー多いし逆らえないかも…」

高校1年生のAさんは、イラストや日常のことをSNSに投稿しています。ある日、自分よりずっとフォロワーの多いアカウントから反応がありました。

その人は同じ趣味の投稿をしていて、フォロワーもたくさんいて、周りからも人気があるように見えました。

最初はこんなやりとりでした。「イラストうまいね」「センスある」「もっと見たい」「応援してるよ」

Aさんはうれしくなって、何回か返事をしました。すると、その人は少しずつ距離を詰めてきました。

「もっと仲良くしたいからDMで話そう」「他の人には見せてない写真とかある？」「特別に見せてよ」「このくらい大丈夫でしょ」

Aさんが少し困って返事をにごすと、相手はこんなふうに言いました。

「そんなに警戒しなくてもよくない？」「こっちはフォロワーも多いし、変なことしたらすぐバレる立場だよ」「ていうか、もし自分が嫌な気分になったら、そっちのこと投稿しようかな」「フォロワー多いから、変な人って思われたら一気に広まるよ？」

「こっちを悪く言っても、どっちが信じられると思う？」

Aさんはすごく不安になりました。相手は人気がある人だし、自分より影響力がある。もし何か書かれたら、みんな相手を信じるかもしれない。そう思うと、怖くて誰にも相談できなくなってしまいました。

# 大人もデジタルの変化に付いていくこと

**子どもを守るために必要なのは、一般論としての注意喚起ではありません。**
今のトラブルは、ゲーム、配信、DM、サブアカウント、AI加工など、子どもたちの日常の中で起きています。

だから、**「知らない人に気をつけよう」**というような汎用的な言葉だけでは、
子どもは自分のこととして理解しにくいのです。

必要なのは、今の子どもたちが実際に直面している、個別具体的な事例で考えることです。

そして、まず大人が今のデジタル環境を理解しなければなりません。
大人が分からないままでは、子どもが本当に迷う場面を想像できず、支援も注意喚起も現実からずれてしまいます。

**子どもに具体的に教えるためには、まず大人が具体的に理解すること。**
**これが、今の時代の支援には欠かせません。**

# 04 「性教育」はいつから？

# 「性教育」はいつから？　―今でしょう！

不適切な**性的発言**や他者との距離感の**ズレ**が広がっている

「問題行動」ではなく，適切な知識・関わり方の「**未学習**」

**教育現場**：「寝た子を起こすな」という誤解や保護者対応への不安から**タブー視**されやすい

SNS・インターネット等により子どもたちは**情報過多**の中にいる

子どもが**加害者**・**被害者**にならない**予防的性教育**が重要

# 世界の潮流「包括的性教育：CSE」①

Comprehensive Sexuality Education
**権利・健康**を守る基盤的教育

**ユネスコ**：科学的根拠に基づき、発達段階に応じて、
**性・人間関係・同意・多様性**を学ぶ重要性を提唱

**WHO**（World Health Organization ：世界保健機関）
**性感染症・望まない妊娠の予防、暴力・虐待防止、自己決定力育成**に寄与

**欧州諸国**：幼少期から性教育が制度化、予防教育として定着

**国際社会**：日常生活を支える基本的教育として位置づける方向

# 「包括的性教育：CSE」②

- 性を生き方として捉える
- 感情と関係性の理解（気持ち・対人関係）
- 同意と境界（いやと言う／尊重する）
- 安全と被害予防（自己防衛・支援の求め方）
- 多様性と人権の尊重（個人差・ジェンダー・文化）
- 自己決定力と責任（選択し行動する力）

# 放課後デイの役割に期待

- 文部科学省「学習指導要領」では保健体育中心の性教育
- 「はどめ規定」により学校教育では扱いに制限がある内容も存在
- こども家庭庁「こども大綱」では子どもの権利・福祉、予防的支援、包括的育成環境整備を重視
- 放課後等デイサービスは「距離感」「同意」「プライベートゾーン」
- 「SNS利用」等を具体的に学べる場として性教育でも役割が拡大

# 05 グループワーク・事例検討

# 事例概要①

放課後等デイサービスを利用している小学6年生のAさん。

知的発達にゆっくりさがあり、言葉でのやり取りはある程度できるものの、自分の気持ちや理由を説明することは苦手である。

Aさんは以前から人との距離感が近く、職員や他児の近くに座ったり、顔を近づけたり、身体に触れたりすることがあった。

「近すぎるよ」「相手がびっくりするよ」「少し離れようね」と声をかけてきた。

# 事例概要①

しかし最近、思春期に入り、身体接触の内容や周囲の受け止め方に変化が見られるようになってきた。

ある日、Aさんが年下の児童Bさんの隣に座り、肩や腕に何度も触れる様子が見られた。

Bさんは最初は笑っていたが、次第に表情がこわばり、職員の方を見るようになった。

別の日には、Aさんが他児の顔にかなり近づき、キスをしそうな距離まで接近する場面があった。

職員が止めると、Aさんは笑ってその場を離れたが、なぜ止められたのかは十分に理解していない様子だった。

# 事例概要②

- Cさん（中学2年生）は、自由遊びなどの時間に、陰部などを繰り返し触ることがある。周囲にいる他児が戸惑ったり、衛生面での心配もある。
- 職員が声をかけると一時的に止めるが、時間が経つと再び同じ行動が見られる。周囲を困らせる意図はないように見えるが、公共の場でのルールについては理解が十分ではない。
- 職員は「手は外に出そう」「身体を触るのは一人の場所でしよう」と短く伝えているが、あまり効果は見られない。
- また、おやつの時間などで突然服を脱いでしまうこともあるが、理由はわからない。

# グループワーク

グループ内で、事業所内において同様の場面に遭遇した経験があるかを共有してください。また、その際にどのように対応したか、またはどのような対応が考えられるかについて、意見交換を行ってください。（時間：10分）

# グループワーク　事例：距離感が近い児童

## 知的発達にゆっくりさがある小学6年Aさん

- 人との距離感が近く、顔を近づける・身体に触れることがある
- 「近すぎるよ」「少し離れようね」と声かけを継続
- 思春期に入り、身体接触や周囲の受け止め方に変化
- 最近、年下児童Bさんの肩や腕に何度も触れる
- Bさんは徐々に表情がこわばり職員に視線を向ける様子がみられた
- 別日、他児の顔にキスをしそうな距離まで接近
- 職員の制止にその場を離れるが、制止された理由の理解は不十分

# グループワーク　事例：検討・支援の視点

① どのように身体接触を教えるか
② どのようにプライベートゾーンを伝えるか
③ 「同意」をどう理解してもらうか
④ 否定だけでなく代替行動をどう教えるか
⑤ 周囲の安心・安全をどう確保するか
⑥ 視覚支援
⑦ ソーシャルストーリー
⑧ 距離感の“見える化”
⑨ 安心して過ごせる個別空間の確保
⑩ 「問題行動」ではなく“未学習”として理解する視点

# ①どのように身体接触を教えるか

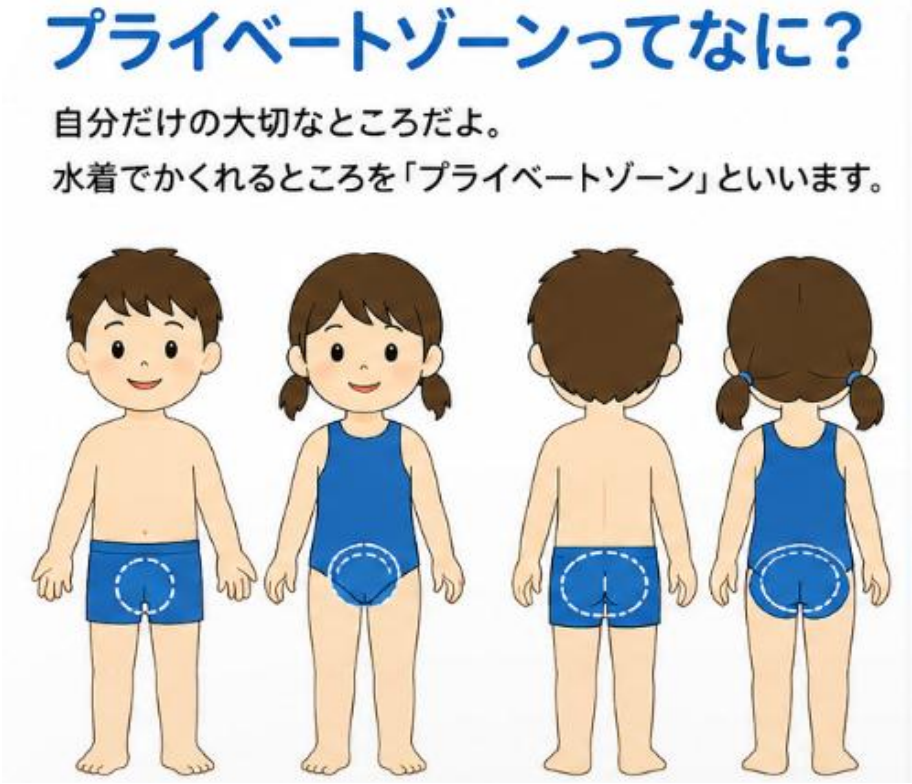
**身体接触**＝「 相手との**関係**」で考える

- 「触りたい**気持ち**」自体を否定しない
- **相手**にも“気持ち”があることを伝える
- 「**いい**よ」と「**いや**」の違いを具体的に学ぶ
- **OK**な触れ方・**NG**な触れ方を整理する
- 手を握る・抱きつく等は**場面や相手**によって異なる
- **短**く**具体**的に伝える
- できた時を肯定的に**評価**する
- 職員間でルールを**統一**する

# ②どのようにプライベートゾーンを伝えるか

**プライベートゾーン＝「大切な自分の体」**

- 水着で隠れる部分は大切な場所
- 人前で触らない・見せない
- 他人のプライベートゾーンも守る
- 困った時は信頼できる大人に相談する
- 恥でなく「安全」として教える
- イラストやカードを活用する
- 家庭や学校と伝え方を共有する



# ③「同意」をどう理解してもらうか

**「いや」＝「大切なサイン」**

- 相手が嫌と言ったら止める
- 表情や距離から気持ちを考える
- 自分も「いや」と言ってよい
- 無理に合わせなくてよい
- ロールプレイで学ぶ
- 「断る」「断られる」を経験する
- 小さな場面から繰り返し学習する

# ④否定だけでなく代替行動をどう教えるか

「ダメ」だけ＝「変わりにくい」

- 代わりにどうするかを具体的に伝える
- 抱きつき → あいさつ・手振り
- 近づきすぎ → 腕一本分あける
- 行動を置き換えて教える
- 成功体験を積み重ねる
- 繰り返し練習する

# ⑤周囲の安心・安全をどう確保するか

**本人支援と周囲支援**を「**両立**」させる

- **相手**児童の安心感を守る
- 職員が**早めに介入**する
- トラブル前の**予防**を重視する
- **ルール**を視覚化して共有する
- 支援者間（職員、家庭、学校）で対応を**統一**する
- 一方的な**叱責**にしない
- 周囲児童への**フォロー**も行う
- 安心できる**環境**調整を行う

# ⑥視覚支援

## 「見てわかる」支援

- 言葉だけでなく絵やカードを使う
- OK・NGを視覚的に示す
- 距離感やルールを図で示す
- 見通しを持てるようにする

### 活用例

- プライベートゾーンの図や距離感カード
- SNSルール表
- 行動手順表

# ⑦ソーシャルストーリー

## 状況理解を助ける支援

- 「どんな場面か」
- 「相手はどう感じるか」
- 「どう行動するとよいか」
- 短い文と絵で伝える

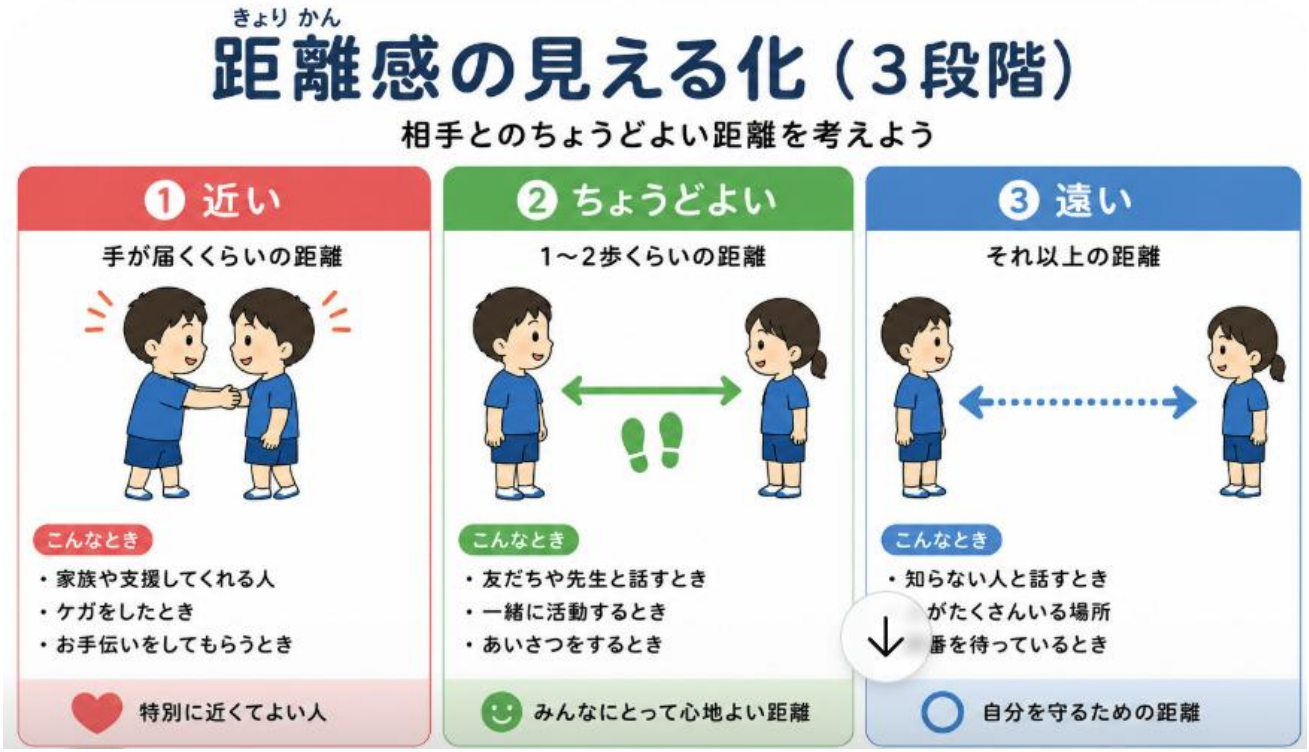
### 活用例

- 抱きつきたくなった時
- 「いや」と言われた時
- 着替えやSNS利用時

# ⑧距離感の“見える化”

**腕一本分**を「目安」にする

- 床**テープ**やマークを使う
- 立ち**位置**を示す
- **イラスト**や写真で学ぶ
- **抽象**表現だけに頼らない
- 実際に体を**動かして**学ぶ
- 日常場面で**繰り返す**



# ⑨安心して過ごせる個別空間の確保

## 落ち着ける場所を「準備」する

- 一人になれる空間を作る
- 気持ちが落ち着く時間を確保する
- 刺激を減らす環境調整を行う
- 安心できる場所を事前に共有する
- 「逃げ場」を保障する
- 叱責場所にしない
- 安心と安全を優先する

# ⑩　「問題行動」ではなく“未学習”

## 「困った行動」の「背景」を見る

- 知らない
- 学ぶ機会がなかった
- 伝わっていない
- 発達特性が影響している
- 行動だけを叱らない
- 「どう教えるか」を考える
- 繰り返し学べる環境を作る
- 子どもの尊厳を守る支援を行う

# 「私の性教育実践の歩み」

- 私は,性教育の実践を志して小学校養護教諭となり,「寝た子を起こすな」と言われる時代に,担任や校長・教頭・保健主任・PTA保健委員会や児童保健委員会などと協働しながら,手作り教材・カリキュラムによる性教育実践を重ねてきました.

- 中学校養護教諭時代は生徒保健委員会と学校医の協働による「性・エイズ・ドラッグ」をテーマとした英語劇が,県内学校保健研究の場に招聘され発表の機会をいただきました．また,高校福祉科教諭時代には,外部講師を招いたコンドームワークショップなど,発達段階とニーズに応じた体験的学びを導入した性教育に取り組んできました.

- これらの実践には全国から校長・養護教諭等の参観希望が寄せられ,教材・実践の出版や,テレビ取材・出演などにも発展しました.

# 「未来をひらく性教育」

- これらの実践を基盤として,現在は大学教員として性教育の研究と人材育成に取り組み,学校・福祉・医療・行政が連携した包括的性教育の普及を目指しています.

- 今後は,放課後等デイサービスの皆様とも連携しながら,発達障害児・者への包括的性教育や保護者支援,支援者研修などを通して,地域全体で子どもたちの性と健康を支える学びの機会を広げていきたいと考えています.

- すべての子どもたちが自分らしく安心して成長できる社会を,ご一緒に創っていきましょう.

# 06 最後に

# つながる支援ネットかわぐちの今後の展望

## 支援者と支援者をつなぐ

- 研修会や交流会の実施
- 児童分野と就労分野など異なる分野での情報交換会の開催

## 支援者と当事者、ご家族をつなぐ

- 地域密着の事業所紹介フリーペーパー、サイトの作成
- 子ども食堂やファミリー向けの音楽会などの開催

## 支援者、当事者、ご家族と地域をつなぐ

- 障害のある方も利用しやすいお店や施設の情報提供
- 当事者やご家族も主体となるお祭りの開催

# アンケート回答をお願いいたします

